

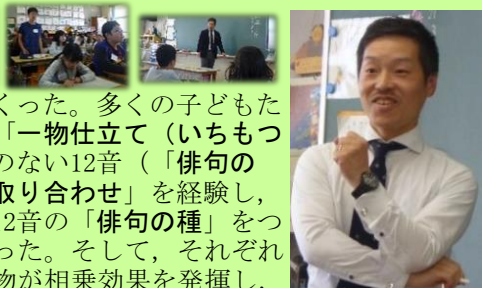


「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

平成30年度 授業改革実践研修会

平成30年10月29日（月）実施
会場：高知市立小高坂小学校

【示範授業】関西学院初等部 野村 真一 教諭
第5学年 国語科 「五七五で表そう」



示範授業では、はじめに、「ソーダ水」を季語とした俳句をつくった。多くの子どもたちが、季語から想像できる十二文字を入れた句をつくり、それが「一物仕立て（いちもつじたて）」という手法であることを知った。次に、季語とは関係のない12音（「俳句の種」と呼ぶ）に5音の季語を取り合わせて俳句を構成する技術「取り合わせ」を経験し、俳句の創作に新たな軸をつくることを目指した。子どもたちは、12音の「俳句の種」をつくった後、教師が提示した今日の季語を組み合わせて俳句をつくった。そして、それぞれの俳句のイメージを共有することによって、一句の中で二つの事物が相乗効果を発揮し、趣を高めていることを学んだ。振り返りの場面では、視点を①学び（45分前の自分と比べて）②仲間のこと（よかった発言など）の二点を示した。そのことによって、子どもたちは、自分の変容や友達の見解について、振り返ることができた。



取り合わせたときの子どもたちのイメージ（一部抜粋）

山の桜を見て
いたら宿題が終
わらなくなった

宿題が終わら
ないうちに山に
は桜が咲いた

自分分は宿題が
終わらないけれ
ど、赤とんぼは
ゆつくり飛んで
いるだけでいい
なあ

宿題がまだ終
わらない

宿題が終わっ
ていないけど、
せん風機を回し
て休けいしてい
るイメージ

せん風機

（全員で考えるテーマ）
宿題がまだ終わらない

今日の季語

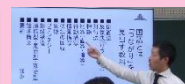
冬	秋	夏	春
春を待つ	冬りんご	きんもくせい	赤とんぼ
息白し	秋祭り	あまがえる	せん風機
			雲のみね
			夏みかん
			つばめ飛ぶ
			山笑う

子どもたちが考えた俳句の種

大会で優勝できた
カラフルでかわいく盛れる
あのときの自分はここに
絶対に食べると危険
宿題がまだ終わらない

全員で「取り合わせ」を考える俳句を選ぶポイント
みんなで作っていくモデルとして、ちょっとしたユーモアがあり、しみじみとした空気を付けることができる「品をもって幅を出せるもの」を選ぶ。

【講義】「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて」
講師：関西学院初等部 野村 真一 教諭



予測不可能な2030年の社会をつくりていく子どもたちに、決まった答えのない課題に取り組み、新しい価値を見いだす力（資質・能力）を付けるためにどうすればよいのか、授業のユニバーサルデザインの三つの視点をもとに、授業づくりや指導の在り方についてご示唆いただいた。

授業のUD三つの視点

- 焦点化（シンプル）
- 視覚化（ビジュアル）
- 共有化（シェア）

- 活動内容を明確にすること
⇒ 本質的な学びに特化したシンプルな授業（他に転移する）
＊ 支援の必要な児童
→ シンプルだからのれる
＊ ハイタレントな児童
→ 本質的だからのれる

特に、**目標の焦点化**が大切！

- イメージの力で理解を支えること
- 文章をブロックの集合体で見ること

例 文の構造をとらえる！

大切	例
こたえ③ こたえ② こたえ①	こたえ③ こたえ② こたえ①

こたえ③
こたえ②
こたえ①

関西学院初等部では、国語科「各学年 読みに関する指導事項」を作成し、「文学的文章」「説明的文章」それぞれにおける指導事項（学習用語）が抜かりなく指導されているかを単元ごとにチェックしている。

学年の足並みを揃えることが大切！

- 【例】第1学年「どうぶつの赤ちゃん」指導事項（学習用語）
- ・ 対比（違ったものを比べる）
 - ・ 説明文
 - ・ 問いと答え
 - ・ 順序（順番）
 - ・ 題名
 - ・ 類比

- 皆と「わかる・できる」を共感すること
⇒ ① 大切なところで、**止める技術**
② **じわじわと広げる技術**

- ・ 他者の発言をつなげる
- ・ ペアで話し合う
- ・ 動作化する など

【受講者の感想から】

示範授業、講義を通して、授業づくりの理念や哲学、それに根差した具体的な手法をたくさん学ばせていただきました。授業にしかけをするとき、それが教科の内容の本質に迫るところでなければ意味がないというところが大変納得しました。使用教科書と他社の教科書との比較を早速してみたいと思います。

目的

キャリア教育の概念について理解するとともに、キャリア発達の中核となる能力についての理解を深め、日常生活での発達につなげることができる指導力を身に付け、その資質の向上を図る。

「新学習指導要領に基づくキャリア教育の実践

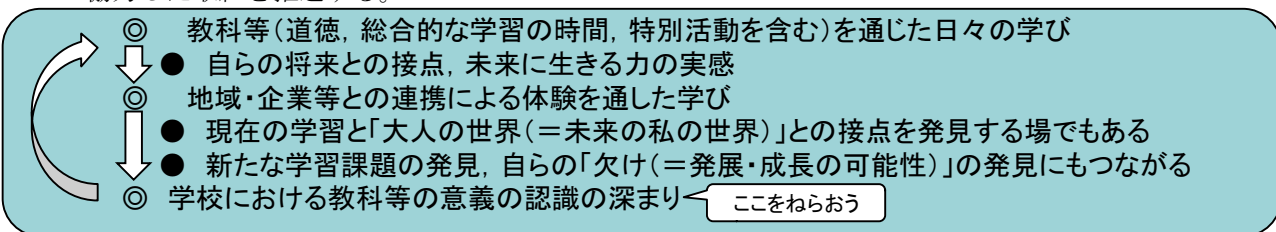
「一学ぶことと自己の将来とのつながりを見通すことに焦点をあてて」

講師：筑波大学 人間系 藤田 晃之 教授

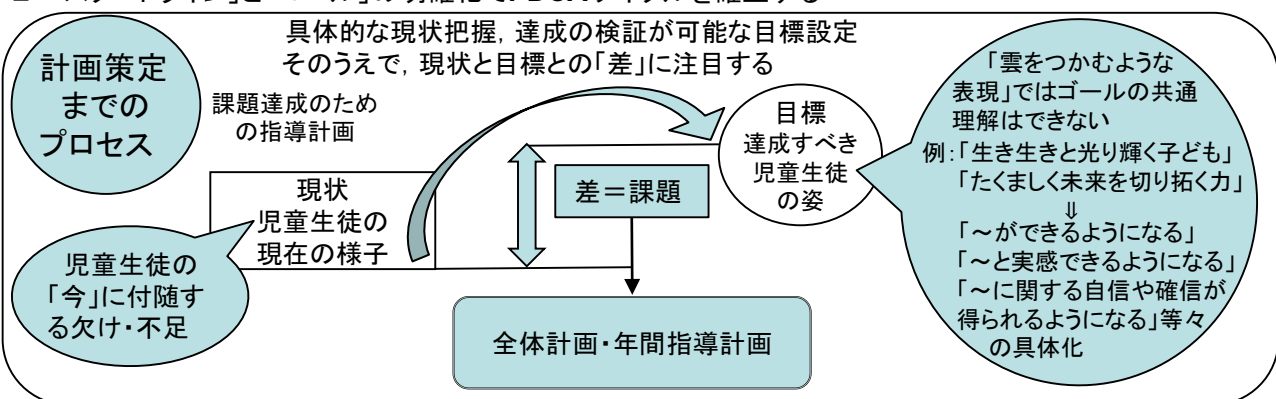


1 キャリア教育推進の2本柱（「第2期教育振興基本計画」平成25年6月 文部科学省）

- (1) 子ども・若者の発達の段階に応じて学校の教育活動全体を通じた指導をすすめる
- (2) 職場体験活動・インターンシップ等の体験活動や外部人材の活用など地域・社会や産業界等と連携・協力した取組を推進する。



2 「スタートライン」と「ゴール」の明確化でPDCAサイクルを確立する



3 目標がちゃんとしていれば、評価は難しくない

- ・ 「身に付けさせたい力」が具体的にになっていけば、それを「疑問形」に変換してアンケート調査項目をつくることができる

【例】目標… 必要なこと・すべきことには、不得意なことにも進んで取り組むことができる

アンケート項目… 必要なこと・すべきことがある場合、それが不得意なことであっても進んで取り組んでいますか。

- ・ 「身に付けさせたい力」が具体的にになっていけば、小・中学校のバトンの受け渡しもでき、地域とも共有できる

4 教育活動全体を通じて取り組む

- ・ 「今の授業」がつながる未来を意識し、児童生徒と共有する

5 特別活動を要としつつ、学ぶことと自己の将来とをつなぐ

- ・ とりわけ大切なのは教員のコメント・言葉がけ

→「キャリア・パスポート」（仮称）で生み出す「対話的な関わり」

【例】「しんどい時期」の作成・「しんどかった時期」の振り返りの際にこそ問われる教員の力量

- (1) 書けない・書かない、「分からない」「特にない」→児童期の安定した（幼い）自己理解・社会理解から脱却した成長の証。不安定な自分自身への不安、将来への不安も含めて、成長のプロセスととらえる
- (2) 思春期の疾風怒濤の時期を振り返るつらさ（高校生）→その時期を乗り越えたからこそ「今のあなた」がいることを伝える

「キャリア・パスポート」（仮称）については文部科学省HPをご参照ください

【参考】目標設定はSMARTに！

- S…Specific**
→具体的に・焦点化して
- M…Measurable**
→測定・検証可能な言葉で
- A…Achievable**
→頑張れば達成できるレベルで
- R…Realistic**
→現実的に即して
- T…Time-bound**
→いつまでに達成するのかを明確に

【受講者の感想】

- ・ キャリア教育とは特別なことではなく、毎日の授業の中にキャリア教育の視点を意識して、児童生徒にその価値を伝えることの必要性が分かった。またPDCAをしっかり回すためには、目標設定が大切だと教えていただいたので自校の目標を振り返り、まず実態を把握することから始めたい。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。